

科目名	基礎看護技術Ⅱ (日常生活の援助技術) Fundamental Nursing skillsⅡ		担当教員 (研究室番号)	川島 珠実 (202) 鈴木 聡美 (306) 菅原 啓太 (204) 多久和有加 (208) 米川さや香 (208)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目・実践基礎看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(60)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	対象者の生活上のニーズを満たすための看護援助について、科学的根拠に基づき安全・安楽に実施する技術を、主体的な学習により修得する。											
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達 目標	1. 対象者の生活を、生理・心理・社会面からアセスメントするための視点を説明できる。 2. 対象者の生活行動を安全・安楽・自立に向けて援助するために必要な知識と技術を習得できる。 3. 科学的根拠に基づいて看護を実践することの必要性を説明できる。 4. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。											
成績評価方法 (基準)		筆記試験(50点)、課題レポート(40点)、ジグソー学習法の取り組み(10点)による総合評価を行う。なお、筆記試験60%以上であり、かつ総合点60点以上の評価であることを単位認定の条件とする。										
再試験の有無と 基準等		筆記試験で不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。										
教科書		看護学テキストNiCE 基礎看護技術,改訂第3版,南江堂										
参考書等		ヴァージニア・ヘンダーソン著,湯植ますほか訳:看護の基本となるもの(再新装版),日本看護協会出版会 フロレンス・ナイチンゲール著,小玉香津子・尾田葉子訳:看護覚え書(新装版),日本看護協会出版会,2019. その他、授業の中で適宜紹介する。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待		前期の基礎看護技術Ⅰに引き続き、看護技術の根拠を考えながら、対象者を尊重し、その人に合わせた方法を追求してもらいたいと考えています。そのため、事前学習が必須となり、講義・演習ではグループで基本的な看護技術から応用まで発展的に検討することを重視します。 この科目では、全員がある技術の専門家になり、他の学生に教えたり、教えられたりする学習方法を取り入れます。専門家は、技術の流れや留意点、患者への配慮、その根拠等を自分の言葉で説明できるよう自己練習に励んでください。 日常生活援助技術は、授業(講義・演習)を受けるだけでは習得することはできません。授業では、「あとは自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己練習のポイントをつかむようにしましょう。そのためにも自分のスケジュールを調整して、予習・復習及び技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度を高めるよう取り組んでください。										
備考		・授業の一週間前までにWeb Classに授業概要や事前課題(レポート・映像教材視聴含む)や演習資料(演習ノート)等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後片付けを行うため、自己の役割を理解して主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで示す)。										
回	学習項目				学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	オリエンテーション				日常生活を整えることの意義について理解する。 ジグソー学習法の進め方について理解する。				川島	講義		
2回	衣生活援助技術①				衣生活の意義および衣服を整える意義と健康に影響を与える要因・アセスメントの視点を学ぶ。				米川	講義		
3回	衣生活援助技術②				臥床状態の対象者の和式寝衣を安全・安楽に交換する技術を学ぶ。				米川、他	演習		
4回	清潔援助技術①				清潔の意義を理解し、清潔のニードが満たされているかを判断する視点を学ぶ。				川島	講義		
5回	清潔援助技術②				口腔ケアや整容の意義や基本的な援助方法とその根拠を学ぶ。				鈴木	講義		
6回	排泄援助技術①				排泄のアセスメントの視点や自然な排泄を援助する方法とその根拠を学ぶ。				鈴木	講義		
7回	排泄援助技術②				排便障害のある対象者のアセスメントおよび排便の状態を整える援助方法とその根拠を学ぶ。				鈴木	講義		
8回	排泄援助技術③				臥床している対象者に対して、安全・安楽に排泄介助を行う技術を学ぶ。				鈴木、他	講義		
9回	排泄援助技術④				グリセリン浣腸を安全・安楽に実施し、排便を促す技術を学ぶ。				鈴木、他	演習		
10回	呼吸・循環調整技術				呼吸・循環状態に異常をきたした対象者に対して、安全・安楽かつ効果的・効率的な薬法の援助方法を学ぶ。				多久和	講義		
11回	食事援助技術①				食事・栄養のニーズを充足するための基礎的知識とアセスメントの視点を学ぶ。				川島	講義		
12回	食事援助技術②				非経口的栄養摂取法の種類と留意点および基本的な援助方法を学ぶ。				川島	講義		
13回	食事援助技術③				自力で安全に食事摂取ができない対象者に対して、安全・安楽に食事介助を行う技術を学ぶ。				川島、他	演習		
14回	清潔援助技術③				自力で口腔内の清潔が保てない対象者に対して、安全・安楽に口腔ケアを行う技術を学ぶ。				鈴木、他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当教員	授業方法
15回	清潔援助技術④	身体の部位に応じ、皮膚や粘膜などを清潔にするための方法やその根拠を学ぶ。	川島	講義
16回	清潔援助技術⑤	身体の部位に応じ、皮膚や粘膜などを清潔にするための方法やその根拠を学ぶ。	菅原	講義
17回	清潔援助技術⑥	担当する課題について事前学習を行う。	川島、他	演習
18回	清潔援助技術⑦ 専門家チームの活動①	教員から指導を受けながら、担当する課題について学ぶ。	川島、他	演習
19回	清潔援助技術⑧ 専門家チームの活動②	担当する課題の技術を習得する。	川島、他	演習
20回	清潔援助技術⑨ 専門家チームの活動③	担当する課題の技術を向上させ、留意点やポイントを整理する。	川島、他	演習
21回	清潔援助技術⑩ 専門家チームの活動④	担当する課題の技術および教授方法をチェックする。	川島、他	演習
22回	清潔援助技術⑪ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、部分浴を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	菅原、他	演習
23回	清潔援助技術⑫ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、清拭を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
24回	清潔援助技術⑬ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、清拭を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
25回	清潔援助技術⑭ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、陰部洗浄を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	多久和、他	演習
26回	清潔援助技術⑮ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、洗髪を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	米川、他	演習
27回	清潔援助技術⑯ ジグソーグループの活動	専門家の教授により、洗髪を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。	米川、他	演習
28回	総合演習①	これまでに学習したことを活用しながら、事例対象者に対し安全・安楽を踏まえた援助方法をグループで検討する。	鈴木、他	演習
29回	総合演習②	これまでに学習したことを活用しながら、事例対象者に必要な援助をグループで検討する。	川島、他	演習
30回	総合演習③	総合演習②で検討した援助について、安全・安楽を踏まえた方法や留意点などをグループで検討する。	川島、他	演習

学 習 課 題	
※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。	
1 回目 課題（事前）：	授業ガイダンス資料を事前に読み、学習方法・内容の概要を理解する。
2～3 回目 課題（事前）：	教科書や資料を参考に、衣生活の意義や清潔・衣生活を整える方法を整理する。
2～3 回目 課題（事後）：	寝衣交換のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
4 回目 課題（事前）：	教科書や資料を参考に、身体の清潔の意義や清潔を整える方法を整理する。
4 回目 課題（事後）：	清潔のニーズを把握したり、清潔に保つ方法を選択するための視点を整理する。
5, 14, 15～27回目課題（事前）	教科書や資料を参考に、身体の各部位を清潔にするための援助方法とその根拠を整理する。
5, 14, 15～27回目課題（事後）	身体を清潔に保つ方法や留意点、根拠を整理する。
6～9 回目 課題（事前）：	形態機能学の知識と教科書や資料を参考に、排泄のメカニズムを復習する。自己の排泄状況を観察し、記録する。
6～9 回目 課題（事後）：	自己の体験をもとにおむつ装着のポイントや対象者の気持ちをレポートにまとめ、提出する。
10 回目 課題（事前）：	形態機能学の知識と教科書や資料を参考に、呼吸および循環のメカニズムを復習する。
10 回目 課題（事後）：	電法の方法および効果について整理する。
11回目課題（事前・事後）：	教科書や資料を参考に、栄養状態や水分出納のアセスメントの方法を整理する。
12回目課題（事前・事後）：	教科書や資料を参考に、非経口栄養摂取法の種類や留意点、根拠を整理する。
13回目課題（事前・事後）：	安全・安楽に食事介助を行う方法や留意点・根拠を整理する。
17～21 回目 課題（事前）：	教科書や資料を参考に、自分が担当する学習課題（援助）の流れや留意点、根拠を整理する。
17～21 回目 課題（事後）：	演習での学習を基に、自分が担当する学習課題（援助）の流れや留意点、根拠を整理する。
22～27 回目 課題（事後）：	各専門家からの教授や実施を踏まえ、各技術の流れや留意点、根拠を整理する。
28 回目 課題（事前）：	教科書や資料を参考に、事例対象者への援助方法を考える。
28 回目 課題（事後）：	グループで検討した事例患者への援助方法を整理する。
29～30 回目 課題（事前）：	教科書や資料を参考に、これまで学習した知識・技術を復習する。
29～30 回目 課題（事後）：	授業で用いた技術について、その援助方法とその根拠について復習する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。